

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871200139
法人名	株式会社 エスエイサービス
事業所名	グループホーム 恵須栄
所在地	愛媛県西条市大野330番地1
自己評価作成日	平成24年10月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成24年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の立場、家族からの立場を考え、いかなる相談にも応じ、可能な限り必要に応じた支援が行えるよう努力しております。出来る事、出来ないことはありますが、出来ることについては日常的な場面の中で利用者様の力が発揮できるような場面づくりを行い、出来ないことについては、利用者様の尊厳に配慮しながら適切な援助をおこなっております。スタッフ全員が専門的な知識に対し熟知できているわけではありませんが、利用者様が喜ぶ顔が見られるよう基本的なことから気づきを大切にしたい支援をおこなっております。現時点では、まだまだですが、誰がいつ訪問されても、清潔感を感じられるような空間づくりを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所周辺は自然に恵まれていて、季節の移り変わりを感じながら生活することができる。日頃からベテランと若手職員はコミュニケーションが取れており、日々連携しながら利用者の暮らしを支援している。開設当時に職員全員で考えて作成した理念を大切に共有しながら、声かけ一つにも優しさを込めた対応に努めている。近隣住民との関係も良好で、長年の積み重ねで培ったつながりができている。事業所は、掃除と整理整頓が行き届き清潔感があり、利用者も気持ちよく過ごしている。駐車場は広く、家族等などが訪問しやすくなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

グループホーム恵須栄

(ユニット名)

恵ユニット

記入者(管理者)

氏 名

上野 こずえ

評価完了日

平成24年10月30日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 開設時に当時のスタッフが考え作成したものであり理念を共有できており実践につなげようと努力している。 (外部評価) 開設ときに職員全員で考えて作成した理念が継続されており、利用者や家族にも分かりやすい「笑顔満開」から始まる理念を各ユニットの壁に掲げ、職員が共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 近辺の方とは通勤時や、利用者さまとの散歩の際にお互いが挨拶をすることができている。地域としては年に1回、保育園児が訪問してくれ、利用者的の交流がもてる。秋の祭りには地域の神輿や獅子が訪問してくださり、利用者様の喜ぶ顔が見られる。 (外部評価) 毎日の散歩の際に近隣住民と挨拶したり、立ち話をするほか、時々花を持って来てもらうなど日常的な交流ができている。地域の幼稚園との交流もある。災害対策において地域から協力を得られるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方と、認知症高齢者についての支援のあり方の話し合いを持つ機会がなく、まだまだ理解を促す動きも少ないと感じている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1度、奇数月の第3水曜日に運営水推進会議 を開催し、利用者さまや家族様に参加して頂き、出来 る限り意見を反映させている。地域の方の参加がなか なか難しく多彩なメンバーでの会議に発展することが 困難である。	
			(外部評価) 運営推進会議では市担当者から食中毒などの情報を得 たり、参加した家族から活発な意見を出してもらって いる。会議と合わせて消防訓練や芋炊き会、茶話会な どを行うよう工夫し、参加者が交流でき話しやすい関 係が構築され、有意義な意見が出されてサービス向上 につながっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) ユニットごとに訪問してくださる介護相談員の方から いろんな情報や提案をいただくことができている。市 職員とも電話やメールでのやりとりができている。	
			(外部評価) 市の担当者には、毎回運営推進会議に参加してもら い、研修会の情報などを提供してもらっている。日頃 から事業所の実情を伝えて、困りごとなどがあれば相 談できる良好な関係が築けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束となる具体的な項目についてはスタッフ全員 が熟知しているとは思えないが、拘束になるのではと いう行為についてはその都度、協議し合っている。玄 関、居室、フロアの施錠は一切行っていない。利用者 様が不穏となった際には散歩や1対1の関わりで気分 転換を図っている。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアを正しく理解し実践している。 言葉による拘束にも職員同士で互いに注意を払ってい る。玄関はもちろん掃き出し窓も日中はすべて施錠せ ず、利用者は自由に過ごしている。外出傾向のある利 用者は、職員がさり気なく見守り、行動を共にするよ うにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 言葉の虐待もあるということを常に念頭におき、支援している。言葉かけやケアの方法について、毎月の処遇会や委員会があり、その中で話し合いがもてている。スタッフにおいては、ユニットリーダーがスタッフ一人ひとりの話をよく聞き、ストレスが虐待につながることはないよう努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 外部研修等で学ぶ機会を持つことができていないので、勉強会の中で議題としてあげ、周知する必要がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者及びユニットスタッフ、契約者様と十分に時間を持ち双方の納得、理解が得られている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者様や家族様からの意見、要望が言いやすいような雰囲気づくりに努め、個々に対応している。相談のあったことについてはユニットリーダーよりい処遇会や職員会議などで検討するようにしている。 (外部評価) 家族等からの意見や要望は、面談や電話連絡などの際に聞くようにしている。運営推進会議に出席する家族からは、外出や行事などに関する要望があり、できることはすぐに対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者は月に1回の職員会議や、委員会等でスタッフの意見や提案を聞くことができ、その報告において代表者は理解、反映する努力をしてくれている。 (外部評価) 職員会議では、利用者に関することなどについて職員から意見が出されて、管理者から代表へ報告・検討されるというシステムになっている。運営に活かされた実例として、職員の休憩時間が交代で取れるようになった例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 管理者や、ユニットリーダーと面談する機会をもってくれており、意見を聞くことができている。実際に介護の現場に赴き環境改善にも努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 委員会により研修の参加呼びかけや段取りを行っているが、ユニット内のスタッフの人員により、思うように参加することが困難である。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者やユニットリーダーの意見を聞き入れながら、交流会等に参加している。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者様本人からサービス開始の時点で要望を出してくださることは少ないですが、家族様からの意見や要望を聞き入れたり、利用者様の表情や様子観察しながら安心感のある生活の場づくりに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者様、家族様の困っていること、不安なことがど の程度の物なのか話し合いの場を持ち支援方法を考え るなどして関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) ホームの中でサービスとして行えることと、行えない ことの説明をし、ユニットリーダーや看護師を含め必 要性のあることが何かを話し合っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 基本として利用者様一人一人の尊厳のある暮らしがで きるよう意識しながら取り組んでいる。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族様には出来ることと出来ないこととの説明をし、 スタッフは家族にはなれないこと、家族あつての介護 であることを理解していただき、利用者様を支えるよ う努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) ほとんどの利用者様にとっての馴染みの人、馴染みの 場所についての把握はできていないと思われる。 (外部評価) 利用者の高齢化や病院から直接入居されるケースが多 いこともあり、馴染みの人や場所が十分把握できない ことが多い。改めて家族等から聞き取ったり、利用者 との日常会話の中から把握するなど工夫して関係継続 できるように取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 自己主張されるが為に他者との口論になることもしばしばありますが、双方の意見を聞き入れ孤立してしまわれることのないようスタッフの配慮がされています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去や契約の終了後も訪問や電話による相談や支援は快く受けさせていただいている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) スタッフ側の視点のケア、介護計画にならないよう情報の収集を行いながら利用者様本位の計画になるよう努めている。	
			(外部評価) 長期の利用者も多く、職員も長い付き合いがあるので、概ね一人ひとりの思いや暮らし方の希望などは把握できているが、より一層把握するように努めている。困難な場合は、会話や行動、しぐさなどから読み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 聞ける限りは利用者様から、困難であれば家族様やケアマネージャー様等から情報収集し、その人らしさを把握しようと努力している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 定期的に処遇会、委員会を行うことで利用者様の状況、状態を話し合い、現状把握できるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、本人、家族、必要な関係 者と話し合い、それぞれの意見やアイディ アを反映し、現状に即した介護計画を作成 している	(自己評価) 利用者様、家族様の意向を基に医療機関関係者やケア マネージャー等との連携を図り計画に反映させてい る。 (外部評価) 介護計画を立てる際に、利用者や家族に「どういう生活 を送りたいか」「自分はどうかありたいか」など希望を聞 くことを一番大事にしている。担当者と計画作成担当 者が中心となり、全職員が意見を出しあって介護計画 の作成に関わっている。毎月の会議で評価して見直し ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	(自己評価) 個々の記録に関しては一日の生活の様子、受診の記録 等、その都度関わったものが残し朝礼、夕礼で申し送 りをしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機 能化 本人や家族の状況、その時々にもまれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ れない、柔軟な支援やサービスの多機能化 に取り組んでいる	(自己評価) 個々のニーズに対しては現状としてユニット、ホーム 全体のレベルで対応できる限りの事は行う努力をして いるが、経営面や法改正にも目を向け進めていく必要 があると思われる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができる よう支援している	(自己評価) 地域資源の把握と活用はできているとは思えない。今 後、勉強会の中で、この地域にある資源がどのような ものか、どう活用することができるかをわかり得るよ う努力する必要がある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者様が信頼し係りつけとなっている医療機関や受 診したいと希望される病院への受診の協力はできてお り、手紙や電話等でも主治医との連携もとれている。	
			(外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医の受診ができる ように努めている。家族にも利用者の状態を把握して 欲しいため、病院受診は基本的に家族にお願いしてい る。医師との情報交換は家族を通じて行い、事業所も 共有できている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 委員会や職員会議等での提案や日々の申し送り等での 報告、その都度の相談が行えており、スムーズな解 決、より良いケアにつなげることができている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者様が入院となった場合には、入院先の医療相談 室やソーシャルワーカー、主治医への相談を行い、家 族様も含め早期退院、退院後のケアの在り方について 話し合う機会を持っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 実際にそのような場面になったことはないが、医療機 関、家族様を含めグループホームでの生活を続けるに おいて本人の状況や意向を踏まえたうえで行っていく 必要があると思われる。	
			(外部評価) 利用者と家族には、入居の際に事業所でできる事とで きない事を説明している。重度化した場合は、状態の 変化に応じて家族や医師など関係者で話し合いの機会 を持ち、利用者にとって最善の支援を行うようにして いる。現在のところ看取りをする方針はない。また、 入院して30日を経過すると一旦退居になる事は、初 めに家族に説明している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 実際にそのような場面になった時の為、スタッフに救急救命のDVDをみてもらったり実際に消防職員に訪問して処置法、対応法を学ぶ機会をもっている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 義務とされている避難訓練は行っているが車椅子利用者や、歩行困難な利用者様があり、実際にそのような場面となれば訓練通りに行動することが困難と思われるため、近隣の方にも理解していただき協力して頂ける体制をとっていきたい。 (外部評価) 建物の構造上の問題や非常階段が急なことなどにより、災害時に車いすの利用者を安全に避難誘導することが難しい。また、隣接して高齢者住宅が建ったことで、少し離れた駐車場までの誘導が必要となっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 接遇を意識した声掛けを行うよう心掛けている。言葉遣いについては、お互いに注意し合えるよう委員会からも呼びかけている。 (外部評価) 職員は、日頃から利用者に対し尊敬の気持ちを忘れないようにして、一人ひとりのプライバシーを大切にするように努めている。日常生活でも挨拶を大切にし、利用者の状態に配慮しながら会話を深めて、その人を理解するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者様が自己決定でき、それを伝えていただけるようなコミュニケーション法を工夫している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者様一人ひとりのペースや生活スタイルは尊重していきたいがケアする側の都合が優先となってしまうこともある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者様の家族様の意向の聞き入れにより、整容品の持ち込みや、美容室、理容室の訪問により身だしなみを整えることができる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) テーブル拭きや、お箸、お茶を配っていただいたり、食後の下膳、台所の片付けや食器拭きは利用者様が積極的に手伝ってくださる。	
			(外部評価) 食事は、配食業者から真空調理されたものを温めて、盛り付けをしている。職員は利用者と一緒にテーブルで会話を楽しみながら食事をしている。また、配膳や下膳など無理の無い範囲で利用者に手伝いをしている。	利用者は、食事を楽しみにしていることが多いので、職員で話し合い、誕生会や行事食、利用者のリクエストに応えたメニュー、また調理する機会を設けるなど工夫した取り組みに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ご飯と汁物、和え物はユニットごとに作り、主菜、副菜においては外注している。真空パックで衛生面に配慮し配達されている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 起床時、毎食後に行えている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人一人の排泄パターンを把握し、定時以外の随時の介助が行えている。その方の習慣、排泄パターンに沿ってトイレでの排泄の機会作りができています。	
			(外部評価) 利用者の介護度も高くなり介助が必要なケースも多くなってきたり、一人ひとりの力や排泄パターンを把握して、できるだけトイレで排泄ができるよう支援している。オムツなどの衛生用品も状態に合わせて最低限にして、自立した排泄に向けて支援している。また、2階のトイレは狭いため、介助が必要な場合はドアを開けた状態になるので、目隠しのカーテンを付けるなど工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 緩下剤等の薬剤の使用に頼らないよう粉寒天の使用や、水分量、適度の運動量確保に努めています。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 時間や曜日を決めての入浴となっている。入浴を拒否される方においては時間をおいてみたり、声掛けの工夫をしたりして状況に応じた対応をしている。	
			(外部評価) ほぼ毎日、個浴で入浴ができるよう支援している。入浴が苦手な利用者には、声かけを工夫したり日を変えたりしている。また同性介助にも応じている。ほとんどの利用者は介助が必要で、設備の老朽化もあり、安全な入浴介助ができるよう検討している。	車いすの利用者が増えて、ほとんどの人が介助が必要となった現在、出入り口の工夫やリフトの設置、介助バーの見直し、職員の腰痛防止なども考慮し、安全な入浴ができるよう設備について事業所全体で十分検討することが望まれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の居室での休息は自由にしていただいている。夜間に眠れない利用者は添い寝を試みたり、フロアにて、見守りの中、休んでいただくなど工夫をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 看護師は理解できているが介護スタッフは周知できていない。委員会や、処遇会を利用し、周知する必要がある。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者様、家族様の意向を伺いながら、楽しみとされていることの支援、楽しみを持てる機会作りを行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 近辺の散歩や、月に1回の行事やドライブ、買い物外出等が楽しみとなっている方もおり、ホーム周辺の山や花木をみて季節感をあじわえている。	
			(外部評価) 事業所周辺は自然に恵まれた環境で、利用者の体調に合わせながら、できるだけ毎日散歩に出かけるようにしている。公園や施設に花見に行くことが利用者の楽しみになっているが、車いすの人が多くなり、大型の車両がいつも使える状況にないため、大勢で出かけるのが難しくなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者様、家族様の希望や管理能力により所持されている方もいらっしゃる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙やはがきを試みたが、書くことを苦手とされている方が多く、電話が主流となっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者が楽しめとされ取り組まれているパズルや季節の花を飾っている。定期的に消毒、清掃、換気を行い衛生面に注意している。	
			(外部評価) 共用空間は、利用者が自由に体操や談話等をして居心地よく過ごせるように、安全に考慮してテーブルやソファ等の配置や展示物などを常に整理整頓するように心がけている。衛生面にも力を入れて、隅々まで掃除を行き届かせ、トイレ介助の後の臭いにも注意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 食事以外のテーブルには自由に移動されており、気の合う利用者様同士が会話を楽しんだり、ソファに座り、一人テレビを楽しんだりすることはできている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 自宅にて使いなれていた馴染みの物の持ち込みを自由にしていただいている。	
			(外部評価) 居室には、利用者と家族等が相談し、ベッドやタンス、布団、テレビ、ラジオなど必要な物や、馴染みの小物などを自由に持ち込んでいる。利用者が過ごしやすいうに家具を配置して、個性のある自分の空間にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 車椅子使用の利用者様がおいでるに対し洗面台の位置、設置場所や台所、フロアの位置として機能的とは思えないが、狭いながらも、不便ながらも利用者様の出来ることを活かせるよう努力している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871200139
法人名	株式会社 エスエイサービス
事業所名	グループホーム 恵須栄
所在地	愛媛県西条市大野330番地1
自己評価作成日	平成24年10月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成24年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の立場、家族からの立場を考え、いかなる相談にも応じ、可能な限り必要に応じた支援が行えるよう努力しております。出来る事、出来ないことはありますが、出来ることについては日常的な場面の中で利用者様の力が発揮できるような場面づくりを行い、出来ないことについては、利用者様の尊厳に配慮しながら適切な援助をおこなっております。スタッフ全員が専門的な知識に対し熟知できているわけではありませんが、利用者様が喜ぶ顔が見られるよう基本的なことから気づきを大切にしたい支援をおこなっております。現時点では、まだまだですが、誰がいつ訪問されても、清潔感を感じられるような空間づくりを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所周辺は自然に恵まれていて、季節の移り変わりを感じながら生活することができる。日頃からベテランと若手職員はコミュニケーションが取れており、日々連携しながら利用者の暮らしを支援している。開設当時に職員全員で考えて作成した理念を大切に共有しながら、声かけ一つにも優しさを込めた対応に努めている。近隣住民との関係も良好で、長年の積み重ねで培ったつながりができている。事業所は、掃除と整理整頓が行き届き清潔感があり、利用者も気持ちよく過ごしている。駐車場は広く、家族等などが訪問しやすくなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

グループホーム恵須栄

(ユニット名)

寿ユニット

記入者(管理者)

氏 名

上野 こずえ

評価完了日

平成24年10月30日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 開設時に当時のスタッフが考え作成したものであり理念を共有できており実践につなげようと努力している。 (外部評価) 開設ときに職員全員で考えて作成した理念が継続されており、利用者や家族にも分かりやすい「笑顔満開」から始まる理念を各ユニットの壁に掲げ、職員が共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 近辺の方とは通勤時や、利用者さまとの散歩の際にお互いが挨拶をすることができている。地域としては年に1回、保育園児が訪問してくれ、利用者的の交流がもてる。秋の祭りには地域の神輿や獅子が訪問してくださり、利用者様の喜ぶ顔が見られる。 (外部評価) 毎日の散歩の際に近隣住民と挨拶したり、立ち話をするほか、時々花を持って来てもらうなど日常的な交流ができている。地域の幼稚園との交流もある。災害対策において地域から協力を得られるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方と、認知症高齢者についての支援のあり方の話し合いを持つ機会がなく、まだまだ理解を促す動きも少ないと感じている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1度、奇数月の第3水曜日に運営水推進会議 を開催し、利用者さまや家族様に参加して頂き、出来 る限り意見を反映させている。地域の方の参加がなか なか難しく多彩なメンバーでの会議に発展することが 困難である。	
			(外部評価) 運営推進会議では市担当者から食中毒などの情報を得 たり、参加した家族から活発な意見を出してもらって いる。会議と合わせて消防訓練や芋炊き会、茶話会な どを行うよう工夫し、参加者が交流でき話しやすい関 係が構築され、有意義な意見が出されてサービス向上 につながっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) ユニットごとに訪問してくださる介護相談員の方から いろんな情報や提案をいただくことができている。市 職員とも電話やメールでのやりとりができている。	
			(外部評価) 市の担当者には、毎回運営推進会議に参加してもら い、研修会の情報などを提供してもらっている。日頃 から事業所の実情を伝えて、困りごとなどがあれば相 談できる良好な関係が築けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束となる具体的な項目についてはスタッフ全員 が熟知しているとは思えないが、拘束になるのではと いう行為についてはその都度、協議し合っている。玄 関、居室、フロアの施錠は一切行っていない。利用者 様が不穏となった際には散歩や1対1の関わりで気分 転換を図っている。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアを正しく理解し実践している。 言葉による拘束にも職員同士で互いに注意を払ってい る。玄関はもちろん掃き出し窓も日中はすべて施錠せ ず、利用者は自由に過ごしている。外出傾向のある利 用者は、職員がさり気なく見守り、行動を共にするよ うにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 言葉の虐待もあるということを常に念頭におき、支援している。言葉かけやケアの方法について、毎月の処遇会や委員会があり、その中で話し合いがもてている。スタッフにおいては、ユニットリーダーがスタッフ一人ひとりの話をよく聞き、ストレスが虐待につながることはないよう努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 外部研修等で学ぶ機会を持つことができていないので、勉強会の中で議題としてあげ、周知する必要がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者及びユニットスタッフ、契約者様と十分に時間をもち双方の納得、理解が得られている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者様や家族様からの意見、要望が言いやすいような雰囲気づくりに努め、個々に対応している。相談のあったことについてはユニットリーダーよりい処遇会や職員会議などで検討するようにしている。 (外部評価) 家族等からの意見や要望は、面談や電話連絡などの際に聞くようにしている。運営推進会議に出席する家族からは、外出や行事などに関する要望があり、できることはすぐに対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者は月に1回の職員会議や、委員会等でスタッフの意見や提案を聞くことができ、その報告において代表者は理解、反映する努力をしてくれている。 (外部評価) 職員会議では、利用者に関することなどについて職員から意見が出されて、管理者から代表へ報告・検討されるというシステムになっている。運営に活かされた実例として、職員の休憩時間が交代で取れるようになった例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 管理者や、ユニットリーダーと面談する機会をもってくれており、意見を聞くことができている。実際に介護の現場に赴き環境改善にも努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 委員会により研修の参加呼びかけや段取りを行っているが、ユニット内のスタッフの人員により、思うように参加することが困難である。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者やユニットリーダーの意見を聞き入れながら、交流会等に参加している。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者様本人からサービス開始の時点で要望を出してくださることは少ないですが、家族様からの意見や要望を聞き入れたり、利用者様の表情や様子観察しながら安心感のある生活の場づくりに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者様、家族様の困っていること、不安なことがど の程度の物なのか話し合いの場を持ち支援方法を考え るなどして関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) ホームの中でサービスとして行えることと、行えない ことの説明をし、ユニットリーダーや看護師を含め必 要性のあることが何かを話し合っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 基本として利用者様一人一人の尊厳のある暮らしがで きるよう意識しながら取り組んでいる。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族様には出来ることと出来ないこととの説明をし、 スタッフは家族にはなれないこと、家族あつての介護 であることを理解していただき、利用者様を支えるよ う努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) ほとんどの利用者様にとっての馴染みの人、馴染みの 場所についての把握はできていないと思われる。 (外部評価) 利用者の高齢化や病院から直接入居されるケースが多 いこともあり、馴染みの人や場所が十分把握できない ことが多い。改めて家族等から聞き取ったり、利用者 との日常会話の中から把握するなど工夫して関係継続 できるように取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 自己主張されるが為に他者との口論になることもしばしばありますが、双方の意見を聞き入れ孤立してしまわれることのないようスタッフの配慮がされています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去や契約の終了後も訪問や電話による相談や支援は快く受けさせていただいている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) スタッフ側の視点のケア、介護計画にならないよう情報の収集を行いながら利用者様本位の計画になるよう努めている。	
			(外部評価) 長期の利用者も多く、職員も長い付き合いがあるので、概ね一人ひとりの思いや暮らし方の希望などは把握できているが、より一層把握するように努めている。困難な場合は、会話や行動、しぐさなどから読み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 聞ける限りは利用者様から、困難であれば家族様やケアマネージャー様等から情報収集し、その人らしさを把握しようと努力している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 定期的に処遇会、委員会を行うことで利用者様の状況、状態を話し合い、現状把握できるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者様、家族様の意向を基に医療機関関係者やケアマネージャー等との連携を図り計画に反映させている。 (外部評価) 介護計画を立てる際に、利用者や家族に「どういう生活を送りたいか」「自分はどうか」など希望を聞くことを一番大事にしている。担当者と計画作成担当者が中心となり、全職員が意見を出しあって介護計画の作成に関わっている。毎月の会議で評価して見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個々の記録に関しては一日の生活の様子、受診の記録等、その都度関わったものが残し朝礼、夕礼で申し送りをしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 個々のニーズに対しては現状としてユニット、ホーム全体のレベルで対応できる限りの事は行う努力をしているが、経営面や法改正にも目を向け進めていく必要があると思われる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域資源の把握と活用はできているとは思えない。今後、勉強会の中で、この地域にある資源がどのようなものか、どう活用することができるかをわかり得るよう努力する必要がある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者様が信頼し係りつけとなっている医療機関や受 診したいと希望される病院への受診の協力はできてお り、手紙や電話等でも主治医との連携もとれている。 (外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医の受診ができる ように努めている。家族にも利用者の状態を把握して 欲しいため、病院受診は基本的に家族にお願いしてい る。医師との情報交換は家族を通じて行い、事業所も 共有できている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 委員会や職員会議等での提案や日々の申し送り等での 報告、その都度の相談が行えており、スムーズな解 決、より良いケアにつなげることができている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者様が入院となった場合には、入院先の医療相談 室やソーシャルワーカー、主治医への相談を行い、家 族様も含め早期退院、退院後のケアの在り方について 話し合う機会を持っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 実際にそのような場面になったことはないが、医療機 関、家族様を含めグループホームでの生活を続けるに おいて本人の状況や意向を踏まえたうえで行っていく 必要があると思われる。 (外部評価) 利用者と家族には、入居の際に事業所でできる事とで きない事を説明している。重度化した場合は、状態の 変化に応じて家族や医師など関係者で話し合いの機会 を持ち、利用者にとって最善の支援を行うようにして いる。現在のところ看取りをする方針はない。また、 入院して30日を経過すると一旦退居になる事は、初 めに家族に説明している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 実際にそのような場面になった時の為、スタッフに救急救命のDVDをみてもらったり実際に消防職員に訪問して処置法、対応法を学ぶ機会をもっている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 義務とされている避難訓練は行っているが車椅子利用者や、歩行困難な利用者様があり、実際にそのような場面となれば訓練通りに行動することが困難と思われるため、近隣の方にも理解していただき協力して頂ける体制をとっていきたい。 (外部評価) 建物の構造上の問題や非常階段が急なことなどにより、災害時に車いすの利用者を安全に避難誘導することが難しい。また、隣接して高齢者住宅が建ったことで、少し離れた駐車場までの誘導が必要となっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 接遇を意識した声掛けを行うよう心掛けている。言葉遣いについては、お互いに注意し合えるよう委員会からも呼びかけている。 (外部評価) 職員は、日頃から利用者に対し尊敬の気持ちを忘れないようにして、一人ひとりのプライバシーを大切にするように努めている。日常生活でも挨拶を大切にし、利用者の状態に配慮しながら会話を深めて、その人を理解するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者が自己決定でき、それを伝えていただけるようなコミュニケーション法を工夫している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者様一人ひとりのペースや生活スタイルは尊重していきたいがケアする側の都合が優先となってしまうこともある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者様の家族様の意向の聞き入れにより、整容品の持ち込みや、美容室、理容室の訪問により身だしなみを整えることができる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) テーブル拭きや、お箸、お茶を配っていただいたり、食後の下膳、台所の片付けや食器拭きは利用者様が積極的に手伝ってくださる。	
			(外部評価) 食事は、配食業者から真空調理されたものを温めて、盛り付けをしている。職員は利用者と一緒にテーブルで会話を楽しみながら食事をしている。また、配膳や下膳など無理の無い範囲で利用者に手伝いをしている。	利用者は、食事を楽しみにしていることが多いので、職員で話し合い、誕生会や行事食、利用者のリクエストに応えたメニュー、また調理する機会を設けるなど工夫した取り組みに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ご飯と汁物、和え物はユニットごとに作り、主菜、副菜においては外注している。真空パックで衛生面に配慮し配達されている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 起床時、毎食後に行えている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人一人の排泄パターンを把握し、定時以外の随時の介助が行えている。その方の習慣、排泄パターンに沿ってトイレでの排泄の機会作りができています。	
			(外部評価) 利用者の介護度も高くなり介助が必要なケースも多くなってきたり、一人ひとりの力や排泄パターンを把握して、できるだけトイレで排泄ができるよう支援している。オムツなどの衛生用品も状態に合わせて最低限にして、自立した排泄に向けて支援している。また、2階のトイレは狭いため、介助が必要な場合はドアを開けた状態になるので、目隠しのカーテンを付けるなど工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 緩下剤等の薬剤の使用に頼らないよう粉寒天の使用や、水分量、適度の運動量確保に努めています。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 時間や曜日を決めての入浴となっている。入浴を拒否される方においては時間をおいてみたり、声掛けの工夫をしたりして状況に応じた対応をしている。	
			(外部評価) ほぼ毎日、個浴で入浴ができるよう支援している。入浴が苦手な利用者には、声かけを工夫したり日を変えたりしている。また同性介助にも応じている。ほとんどの利用者は介助が必要で、設備の老朽化もあり、安全な入浴介助ができるよう検討している。	車いすの利用者が増えて、ほとんどの人が介助が必要となった現在、出入り口の工夫やリフトの設置、介助バーの見直し、職員の腰痛防止なども考慮し、安全な入浴ができるよう設備について事業所全体で十分検討することが望まれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の居室での休息は自由にしていただいている。夜間に眠れない利用者は添い寝を試みたり、フロアにて、見守りの中、休んでいただくなど工夫をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 看護師は理解できているが介護スタッフは周知できていない。委員会や、処遇会を利用し、周知する必要がある。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者様、家族様の意向を伺いながら、楽しみとされていることの支援、楽しみを持てる機会作りを行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 近辺の散歩や、月に1回の行事やドライブ、買い物外出等が楽しみとなっている方もおり、ホーム周辺の山や花木をみて季節感をあじわえている。	
			(外部評価) 事業所周辺は自然に恵まれた環境で、利用者の体調に合わせながら、できるだけ毎日散歩に出かけるようにしている。公園や施設に花見に行くことが利用者の楽しみになっているが、車いすの人が多くなり、大型の車両がいつも使える状況にないため、大勢で出かけるのが難しくなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者様、家族様の希望や管理能力により所持されている方もいらっしゃる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙やはがきを試みたが、書くことを苦手とされている方が多く、電話が主流となっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者が楽しめとされ取り組まれているパズルや季節の花を飾っている。定期的に消毒、清掃、換気を行い衛生面に注意している。 (外部評価) 共用空間は、利用者が自由に体操や談話等をして居心地よく過ごせるように、安全に考慮してテーブルやソファ等の配置や展示物などを常に整理整頓するように心がけている。衛生面にも力を入れて、隅々まで掃除を行き届かせ、トイレ介助の後の臭いにも注意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 食事以外のテーブルには自由に移動されており、気の合う利用者様同士が会話を楽しんだり、ソファに座り、一人テレビを楽しんだりすることはできている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 自宅にて使いなれていた馴染みの物の持ち込みを自由にしていただいている。 (外部評価) 居室には、利用者と家族等が相談し、ベッドやタンス、布団、テレビ、ラジオなど必要な物や、馴染みの小物などを自由に持ち込んでいる。利用者が過ごしやすいうに家具を配置して、個性のある自分の空間にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 車椅子使用の利用者様がおいでるに対し洗面台の位置、設置場所や台所、フロアの位置として機能的とは思えないが、狭いながらも、不便ながらも利用者様の出来ることを活かせるよう努力している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871200139
法人名	株式会社 エスエイサービス
事業所名	グループホーム 恵須栄
所在地	愛媛県西条市大野330番地1
自己評価作成日	平成24年10月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成24年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の立場、家族からの立場を考え、いかなる相談にも応じ、可能な限り必要に応じた支援が行えるよう努力しております。出来る事、出来ないことはありますが、出来ることについては日常的な場面の中で利用者様の力が発揮できるような場面づくりを行い、出来ないことについては、利用者様の尊厳に配慮しながら適切な援助をおこなっております。スタッフ全員が専門的な知識に対し熟知できているわけではありませんが、利用者様が喜ぶ顔が見られるよう基本的なことから気づきを大切にしたい支援をおこなっております。現時点では、まだまだですが、誰がいつ訪問されても、清潔感を感じられるような空間づくりを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所周辺は自然に恵まれていて、季節の移り変わりを感じながら生活することができる。日頃からベテランと若手職員はコミュニケーションが取れており、日々連携しながら利用者の暮らしを支援している。開設当時に職員全員で考えて作成した理念を大切に共有しながら、声かけ一つにも優しさを込めた対応に努めている。近隣住民との関係も良好で、長年の積み重ねで培ったつながりができている。事業所は、掃除と整理整頓が行き届き清潔感があり、利用者も気持ちよく過ごしている。駐車場は広く、家族等などが訪問しやすくなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

グループホーム恵須栄

(ユニット名)

栄ユニット

記入者(管理者)

氏 名

上野 こずえ

評価完了日

平成24年10月30日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 開設時に当時のスタッフが考え作成したものであり理念を共有できており実践につなげようと努力している。 (外部評価) 開設ときに職員全員で考えて作成した理念が継続されており、利用者や家族にも分かりやすい「笑顔満開」から始まる理念を各ユニットの壁に掲げ、職員が共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 近辺の方とは通勤時や、利用者さまとの散歩の際にお互いが挨拶をすることができている。地域としては年に1回、保育園児が訪問してくれ、利用者の交流がもてる。秋の祭りには地域の神輿や獅子が訪問してくださり、利用者様の喜ぶ顔が見られる。 (外部評価) 毎日の散歩の際に近隣住民と挨拶したり、立ち話をするほか、時々花を持って来てもらうなど日常的な交流ができている。地域の幼稚園との交流もある。災害対策において地域から協力を得られるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方と、認知症高齢者についての支援のあり方の話し合いを持つ機会がなく、まだまだ理解を促す動きも少ないと感じている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1度、奇数月の第3水曜日に運営水推進会議 を開催し、利用者さまや家族様に参加して頂き、出来 る限り意見を反映させている。地域の方の参加がなか なか難しく多彩なメンバーでの会議に発展することが 困難である。	
			(外部評価) 運営推進会議では市担当者から食中毒などの情報を得 たり、参加した家族から活発な意見を出してもらって いる。会議と合わせて消防訓練や芋炊き会、茶話会な どを行うよう工夫し、参加者が交流でき話しやすい関 係が構築され、有意義な意見が出されてサービス向上 につながっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) ユニットごとに訪問してくださる介護相談員の方から いろんな情報や提案をいただくことができている。市 職員とも電話やメールでのやりとりができている。	
			(外部評価) 市の担当者には、毎回運営推進会議に参加してもら い、研修会の情報などを提供してもらっている。日頃 から事業所の実情を伝えて、困りごとなどがあれば相 談できる良好な関係が築けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束となる具体的な項目についてはスタッフ全員 が熟知しているとは思えないが、拘束になるのではと いう行為についてはその都度、協議し合っている。玄 関、居室、フロアの施錠は一切行っていない。利用者 様が不穏となった際には散歩や1対1の関わりで気分 転換を図っている。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアを正しく理解し実践している。 言葉による拘束にも職員同士で互いに注意を払ってい る。玄関はもちろん掃き出し窓も日中はすべて施錠せ ず、利用者は自由に過ごしている。外出傾向のある利 用者は、職員がさり気なく見守り、行動を共にするよ うにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 言葉の虐待もあるということを常に念頭におき、支援している。言葉かけやケアの方法について、毎月の処遇会や委員会があり、その中で話し合いがもてている。スタッフにおいては、ユニットリーダーがスタッフ一人ひとりの話をよく聞き、ストレスが虐待につながることをないよう努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 外部研修等で学ぶ機会を持つことができていないので、勉強会の中で議題としてあげ、周知する必要がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者及びユニットスタッフ、契約者様と十分に時間を持ち双方の納得、理解が得られている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者様や家族様からの意見、要望が言いやすいような雰囲気づくりに努め、個々に対応している。相談のあったことについてはユニットリーダーよりい処遇会や職員会議などで検討するようにしている。 (外部評価) 家族等からの意見や要望は、面談や電話連絡などの際に聞くようにしている。運営推進会議に出席する家族からは、外出や行事などに関する要望があり、できることはすぐに対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者は月に1回の職員会議や、委員会等でスタッフの意見や提案を聞くことができ、その報告において代表者は理解、反映する努力をしてくれている。 (外部評価) 職員会議では、利用者に関することなどについて職員から意見が出されて、管理者から代表へ報告・検討されるというシステムになっている。運営に活かされた実例として、職員の休憩時間が交代で取れるようになった例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 管理者や、ユニットリーダーと面談する機会をもってくれており、意見を聞くことができている。実際に介護の現場に赴き環境改善にも努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 委員会により研修の参加呼びかけや段取りを行っているが、ユニット内のスタッフの人員により、思うように参加することが困難である。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者やユニットリーダーの意見を聞き入れながら、交流会等に参加している。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者様本人からサービス開始の時点で要望を出してくださることは少ないですが、家族様からの意見や要望を聞き入れたり、利用者様の表情や様子観察しながら安心感のある生活の場づくりに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者様、家族様の困っていること、不安なことがど の程度の物なのか話し合いの場を持ち支援方法を考え るなどして関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) ホームの中でサービスとして行えることと、行えない ことの説明をし、ユニットリーダーや看護師を含め必 要性のあることが何かを話し合っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 基本として利用者様一人一人の尊厳のある暮らしがで きるよう意識しながら取り組んでいる。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族様には出来ることと出来ないこととの説明をし、 スタッフは家族にはなれないこと、家族あつての介護 であることを理解していただき、利用者様を支えるよ う努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) ほとんどの利用者様にとっての馴染みの人、馴染みの 場所についての把握はできていないと思われる。 (外部評価) 利用者の高齢化や病院から直接入居されるケースが多 いこともあり、馴染みの人や場所が十分把握できない ことが多い。改めて家族等から聞き取ったり、利用者 との日常会話の中から把握するなど工夫して関係継続 できるように取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 自己主張されるが為に他者との口論になることもしばしばありますが、双方の意見を聞き入れ孤立してしまわれることのないようスタッフの配慮がされています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去や契約の終了後も訪問や電話による相談や支援は快く受けさせていただいている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) スタッフ側の視点のケア、介護計画にならないよう情報の収集を行いながら利用者様本位の計画になるよう努めている。 (外部評価) 長期の利用者も多く、職員も長い付き合いがあるので、概ね一人ひとりの思いや暮らし方の希望などは把握できているが、より一層把握するように努めている。困難な場合は、会話や行動、しぐさなどから読み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 聞ける限りは利用者様から、困難であれば家族様やケアマネージャー様等から情報収集し、その人らしさを把握しようと努力している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 定期的に処遇会、委員会を行うことで利用者様の状況、状態を話し合い、現状把握できるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、本人、家族、必要な関係 者と話し合い、それぞれの意見やアイディ アを反映し、現状に即した介護計画を作成 している	(自己評価) 利用者様、家族様の意向を基に医療機関関係者やケア マネージャー等との連携を図り計画に反映させてい る。	
			(外部評価) 介護計画を立てる際に、利用者や家族に「どういう生活 を送りたいか」「自分はどうかありたいか」など希望を聞 くことを一番大事にしている。担当者と計画作成担当 者が中心となり、全職員が意見を出しあって介護計画 の作成に関わっている。毎月の会議で評価して見直し ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	(自己評価) 個々の記録に関しては一日の生活の様子、受診の記録 等、その都度関わったものが残し朝礼、夕礼で申し送 りをしている。	
			(外部評価) 個々のニーズに対しては現状としてユニット、ホーム 全体のレベルで対応できる限りの事は行う努力をして いるが、経営面や法改正にも目を向け進めていく必要 があると思われる。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機 能化 本人や家族の状況、その時々にもまれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ れない、柔軟な支援やサービスの多機能化 に取り組んでいる	(自己評価) 個々のニーズに対しては現状としてユニット、ホーム 全体のレベルで対応できる限りの事は行う努力をして いるが、経営面や法改正にも目を向け進めていく必要 があると思われる。	
			(外部評価) 地域資源の把握と活用はできているとは思えない。今 後、勉強会の中で、この地域にある資源がどのような ものか、どう活用することができるかをわかり得るよ う努力する必要がある。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができる よう支援している	(自己評価) 地域資源の把握と活用はできているとは思えない。今 後、勉強会の中で、この地域にある資源がどのような ものか、どう活用することができるかをわかり得るよ う努力する必要がある。	
			(外部評価) 地域資源の把握と活用はできているとは思えない。今 後、勉強会の中で、この地域にある資源がどのような ものか、どう活用することができるかをわかり得るよ う努力する必要がある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者様が信頼し係りつけとなっている医療機関や受 診したいと希望される病院への受診の協力はできてお り、手紙や電話等でも主治医との連携もとれている。 (外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医の受診ができる ように努めている。家族にも利用者の状態を把握して 欲しいため、病院受診は基本的に家族にお願いしてい る。医師との情報交換は家族を通じて行い、事業所も 共有できている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 委員会や職員会議等での提案や日々の申し送り等での 報告、その都度の相談が行えており、スムーズな解 決、より良いケアにつなげることができている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者様が入院となった場合には、入院先の医療相談 室やソーシャルワーカー、主治医への相談を行い、家 族様も含め早期退院、退院後のケアの在り方について 話し合う機会を持っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 実際にそのような場面になったことはないが、医療機 関、家族様を含めグループホームでの生活を続けるに おいて本人の状況や意向を踏まえたうえで行っていく 必要があると思われる。 (外部評価) 利用者と家族には、入居の際に事業所でできる事とで きない事を説明している。重度化した場合は、状態の 変化に応じて家族や医師など関係者で話し合いの機会 を持ち、利用者にとって最善の支援を行うようにして いる。現在のところ看取りをする方針はない。また、 入院して30日を経過すると一旦退居になる事は、初 めに家族に説明している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 実際にそのような場面になった時の為、スタッフに救急救命のDVDをみてもらったり実際に消防職員に訪問して処置法、対応法を学ぶ機会をもっている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 義務とされている避難訓練は行っているが車椅子利用者や、歩行困難な利用者様がおり、実際にそのような場面となれば訓練通りに行動することが困難と思われるため、近隣の方にも理解していただき協力して頂ける体制をとっていきたい。 (外部評価) 建物の構造上の問題や非常階段が急なことなどにより、災害時に車いすの利用者を安全に避難誘導することが難しい。また、隣接して高齢者住宅が建ったことで、少し離れた駐車場までの誘導が必要となっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 接遇を意識した声掛けを行うよう心掛けている。言葉遣いについては、お互いに注意し合えるよう委員会からも呼びかけている。 (外部評価) 職員は、日頃から利用者に対し尊敬の気持ちを忘れないようにして、一人ひとりのプライバシーを大切にするように努めている。日常生活でも挨拶を大切にし、利用者の状態に配慮しながら会話を深めて、その人を理解するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者様が自己決定でき、それを伝えていただけるようなコミュニケーション法を工夫している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者様一人ひとりのペースや生活スタイルは尊重していきたいがケアする側の都合が優先となってしまうこともある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者様の家族様の意向の聞き入れにより、整容品の持ち込みや、美容室、理容室の訪問により身だしなみを整えることができる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) テーブル拭きや、お箸、お茶を配っていただいたり、食後の下膳、台所の片付けや食器拭きは利用者様が積極的に手伝ってくださる。	
			(外部評価) 食事は、配食業者から真空調理されたものを温めて、盛り付けをしている。職員は利用者と一緒にテーブルで会話を楽しみながら食事をしている。また、配膳や下膳など無理の無い範囲で利用者に手伝いをしている。	利用者は、食事を楽しみにしていることが多いので、職員で話し合い、誕生会や行事食、利用者のリクエストに応えたメニュー、また調理する機会を設けるなど工夫した取り組みに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ご飯と汁物、和え物はユニットごとに作り、主菜、副菜においては外注している。真空パックで衛生面に配慮し配達されている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 起床時、毎食後に行えている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人一人の排泄パターンを把握し、定時以外の随時の介助が行えている。その方の習慣、排泄パターンに沿ってトイレでの排泄の機会作りができています。	
			(外部評価) 利用者の介護度も高くなり介助が必要なケースも多くなってきたり、一人ひとりの力や排泄パターンを把握して、できるだけトイレで排泄ができるよう支援している。オムツなどの衛生用品も状態に合わせて最低限にして、自立した排泄に向けて支援している。また、2階のトイレは狭いため、介助が必要な場合はドアを開けた状態になるので、目隠しのカーテンを付けるなど工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 緩下剤等の薬剤の使用に頼らないよう粉寒天の使用や、水分量、適度の運動量確保に努めています。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 時間や曜日を決めての入浴となっている。入浴を拒否される方においては時間をおいてみたり、声掛けの工夫をしたりして状況に応じた対応をしている。	
			(外部評価) ほぼ毎日、個浴で入浴ができるよう支援している。入浴が苦手な利用者には、声かけを工夫したり日を変えたりしている。また同性介助にも応じている。ほとんどの利用者は介助が必要で、設備の老朽化もあり、安全な入浴介助ができるよう検討している。	車いすの利用者が増えて、ほとんどの人が介助が必要となった現在、出入り口の工夫やリフトの設置、介助バーの見直し、職員の腰痛防止なども考慮し、安全な入浴ができるよう設備について事業所全体で十分検討することが望まれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の居室での休息は自由にしていただいている。夜間に眠れない利用者は添い寝を試みたり、フロアにて、見守りの中、休んでいただくなど工夫をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 看護師は理解できているが介護スタッフは周知できていない。委員会や、処遇会を利用し、周知する必要がある。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者様、家族様の意向を伺いながら、楽しみとされていることの支援、楽しみを持てる機会作りを行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 近辺の散歩や、月に1回の行事やドライブ、買い物外出等が楽しみとなっている方もおり、ホーム周辺の山や花木をみて季節感をあじわえている。	
			(外部評価) 事業所周辺は自然に恵まれた環境で、利用者の体調に合わせながら、できるだけ毎日散歩に出かけるようにしている。公園や施設に花見に行くことが利用者の楽しみになっているが、車いすの人が多くなり、大型の車両がいつも使える状況にないため、大勢で出かけるのが難しくなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者様、家族様の希望や管理能力により所持されている方もいらっしゃる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙やはがきを試みたが、書くことを苦手とされている方が多く、電話が主流となっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者が楽しめとされ取り組まれているパズルや季節の花を飾っている。定期的に消毒、清掃、換気を行い衛生面に注意している。 (外部評価) 共用空間は、利用者が自由に体操や談話等をして居心地よく過ごせるように、安全に考慮してテーブルやソファ等の配置や展示物などを常に整理整頓するように心がけている。衛生面にも力を入れて、隅々まで掃除を行き届かせ、トイレ介助の後の臭いにも注意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 食事以外のテーブルには自由に移動されており、気の合う利用者同士が会話を楽しんだり、ソファに座り、一人テレビを楽しんだりすることはできている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 自宅にて使いなれていた馴染みの物の持ち込みを自由にしていただいている。 (外部評価) 居室には、利用者と家族等が相談し、ベッドやタンス、布団、テレビ、ラジオなど必要な物や、馴染みの小物などを自由に持ち込んでいる。利用者が過ごしやすいうに家具を配置して、個性のある自分の空間にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 車椅子使用の利用者がおいでるに対し洗面台の位置、設置場所や台所、フロアの位置として機能的とは思えないが、狭いながらも、不便ながらも利用者様の出来ることを活かせるよう努力している。	